

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北海道)	◎	－	－	－
	○	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少に伴い、来客数が回復している。この傾向は今後も続くことになる。
	○	スーパー（役員）	お客様の様子	・大雪により買物に行けないこと、3月からの食料品の値上げが報道されていることなどにより、カップ麺、小麦粉、パスタなどのまとめ買いが増加している。
	○	スーパー（従業員）	来客数の動き	・前年2月はコロナ禍の影響による売上増加が継続していたが、前年3月以降はその反動で売上の前年割れが続いていた。今年2月は、新型コロナウイルスの新規感染者数が大幅に増加したことで、内食傾向が再び強まり、前年を上回る売上となっている。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大に伴ってまん延防止等重点措置が適用され、冬季の大型イベントが中止になったことなどから、観光を始めとした2月の航空需要は大きく減少した。また、記録的な大雪により、航空や鉄道などの輸送機関の欠航、運休が多発したことも人の動きを抑制した。ただ、新規感染者数が徐々に落ち着いてきたことから、ビジネス需要及び観光需要は回復傾向に転じている。
	○	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が適用されているにもかかわらず、大型商業施設などにおける通信機器の出張販売への来客数が伸びている。ただし、直近の大雪の影響による機会ロスが生じているほか、競合他社の販促費増額に伴って消耗戦が激化しており、それらの影響が今後に向けての不安要素となっている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染対策に伴う自粛の影響で外出を控える人が多く、人出が回復してこない。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の反応がこれまでと変わらない。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・来街者は依然として少ないまま推移している。燃料価格が高騰していること、新型コロナウイルス新規感染者数の増加に歯止めが掛からないことから、区域を訪れる客が極限まで減少しており、店舗によっては来客のない状態が何日も続いている。物販店のなかには、いつまで営業できるのかという瀬戸際まで追い込まれている店が数店あり、深刻かつ危機的な状況が続いている。
	□	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・前月からの新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大を受けて来客数が減少していたところに、2月中旬の大雪による交通障害が重なり、来客数が輪を掛けて減っている。
	□	百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の適用により、来客数が減少傾向になっている。来客数の前年比の推移をみると、11月が95%、12月が91%、1月が93%、2月が24日現在で89%となっている。まん延防止等重点措置の解除が予定されている3月7日以降、来客数が増加に転じるようであれば、景気は上向きになる。
	□	スーパー（店長）	それ以外	・引き続き新型コロナウイルスの影響がみられる。1月にまん延防止等重点措置が適用されてから、来客数が一気に減少した。また、ロシアのウクライナ侵攻の影響で株価が急落し、不安定になっていることもマイナスである。
□	スーパー（店長）	お客様の様子	・悪天候の影響を除けば、来客数、客単価共に大きな変動はみられない。ただし、長引く新型コロナウイルスオミクロン株の影響もあって、客の生活防衛意識は高くなっている。衣料品や趣味用品の動きは鈍く、食品が消費行動の中心となっている。	

□	コンビニ（エリア担当）	それ以外	・直近の消費行動は上向いているものの、世界情勢が悪い方向に動いていることがマイナスとなっている。ガソリン価格の高騰などもその1つであり、消費行動にも少なからず影響を及ぼしている。そのため、景気が良いとも悪いともどちらとも言えない。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響もあり、前月と比べると振り客が少なかった。ただ、全体としては、前月と同様に販売台数もそれほど減っていないことから、景気は変わっていない。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の納期が遅れていることで車の購入時期がずれてきているのか、新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしているためなのか、理由は今一つはっきりしないが、来店者の数が少なく、受注が増えてこない。
□	自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・来客数が前年比95～100%で推移している。売上も同様の状態である。
□	旅行代理店（従業員）	それ以外	・景気は悪いまま変わっていない。新型コロナウイルス感染拡大の影響もあるが、国や自治体の対応策もたら感強く、改善に向かっている感覚がない。
□	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株による急な感染拡大に伴って、まん延防止等重点措置が適用されたことで、人流が抑制されている。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が延長され、夜間の外出が減ったため、これまでの状態を維持せざるを得ない状況となっている。
□	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・2月は悪天候の影響もあって欠航が多かったが、輸送量は前年とほぼ変わらない状態であった。
□	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・コロナ禍のなかではあるが、客の購買意欲は思ったほど低下していない。
▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が全国的にも多くの都道府県で適用されており、それに伴って来客数が減っている。出張はもろろん観光も控えられているため、年末年始の人の動きが良かった頃と比べると約4～5割の人流となっている。
▲	スーパー（企画担当）	単価の動き	・今年に入り、1品単価が上昇傾向にある。商材の値上げが続いていることが大きな要因となっている。生活者は限られた可処分所得のなかで、商材の値上がりだけでなく、エネルギーコストの高騰にも対応しなければならないため、景気は悪化傾向にある。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天候の問題もあるが、新型コロナウイルスの影響を直に受けている部分があることから、周辺の客の動きが鈍っている。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・食品の値上げや原油価格の高騰によって家計に影響が生じていることで、客の買い控えがみられるようになっている。また、まん延防止等重点措置の適用で外出を控えていることも影響している。
▲	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が適用されてから、来客数及び電話の依頼件数が大幅に減少しており、売上が減少している。
▲	家電量販店（店員）	来客数の動き	・当地では2月後半になって新型コロナウイルスの新規感染者数が非常に増えており、その影響で客足が止まっている。
▲	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・長引く新型コロナウイルスの影響もあって、客の来店回数の減少や購入頻度の低下がみられる。国が不要不急の外出自粛を呼び掛けていることの影響も少なくない。
▲	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	単価の動き	・原油価格の高止まりにより、販売量の伸びが鈍化している。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が適用されたことにより、利用者数が減少しており、売上が伸び悩んでいる。

▲	タクシー運転手	来客数の動き	・北海道においてもまん延防止等重点措置が3月6日まで延長され、再度の延長も懸念されるような状況にあることから、来客数が大きく落ち込んでおり、大変厳しい状態に陥っている。
▲	観光名所（従業員）	来客数の動き	・現在、まん延防止等重点措置が適用されていることで、当社も営業施設を時間短縮で営業している。また、このところ暴風雪が相次いでいることで、交通機関の運休や減便がみられるほか、道路状況も悪くなっていることから、客足がかなり鈍っている。
▲	美容室（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に加えて、ひと月に2度の記録的な大雪の影響で人出がなくなった。二重のマイナス要因により、来客数及び売上が落ち込んでいる。2月の売上は例年の70%程度にとどまっている。
▲	美容室（経営者）	販売量の動き	・2月の売上はここ数年での最低を記録した。客の来店控えが影響している。
▲	美容室（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染者が低年齢化していることで、その親世代の外出や仕事にもかなりの影響が出てきている。
▲	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・北海道を襲った大雪の影響で店舗の来客数が著しく減っている。今後がどうなるかも分からないような状況である。
×	商店街（代表者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの第6波の影響で定番の冬のイベントが急きょオンラインによる無観客開催となったほか、まん延防止等重点措置の適用に伴って自治体の宿泊補助支援事業も中止となったことから、期待していた2月の大きな売上がなくなった。また、例年になく大雪に見舞われ、全ての交通機関が麻ひした影響もあり、商業にとっては最悪の状態となっている。
×	商店街（代表者）	販売量の動き	・燃料費や原材料費の高騰がかなり痛い。また、大雪の影響も大きい。全ての動きが悪すぎである。
×	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・正月休みと成人式をきっかけに新型コロナウイルスの第6波が拡大していたところに、大雪で交通が停滞したことでどん底に落ちた。新型コロナウイルス発生前の2019年度と売上を比べると20.4%まで落ち込んでいる。
×	一般小売店〔酒〕（経営者）	それ以外	・まん延防止等重点措置の適用と期間延長に伴い、客先のほぼ全てが営業休止となっており、当社の売上も3か月前と比べて85%の減少となっている。
×	百貨店（営業販売担当）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が適用された1月末から来客数が20%近くダウンしている。近郊エリアで感染が拡大していることもあり、特に年配客の自粛ムードが強まっている。また、催事などで集客しても、衣料品や服飾品の売場への回遊がみられない。
×	衣料品専門店（店長）	それ以外	・外出自粛と大雪の影響で売上が大きく落ち込んでいる。2月の終盤は気温が安定していたこともあり、最低限の数字は確保できたが、流れが非常に悪い。
×	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・半導体不足や新型コロナウイルス感染拡大の影響による部品供給不足などで工場の生産停止が続いていることで、増販期にもかかわらず売上が見込めない状況となっている。中古車の販売にも大きな影響が出ているほか、サービスの対象台数も減ってきており、非常に厳しい状況になっている。
×	その他専門店〔造花〕（店長）	お客様の様子	・新型コロナウイルスについて収束の見通しが立たないことに加えて、大雪の影響で物流の停滞やイベント自粛などが生じていることで、買い控えの傾向が強まっている。

		高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・売上が例年の50%を下回っているなど、景気は悪い。昼は悪くなかったが、悪天候の影響で鉄道が全面運休した日は極端に来客数が落ち込んだ。ただ、スタッフの一部も通勤できなくなり、欠勤となったため、経営的には助かった。夜はまん延防止等重点措置の適用に伴って時短営業しているが、予約客も振り客も少なく、ほぼ開店休業状態であった。経営会社の融資や時短営業への支援金があることから、どうにか営業を続けることができているが、元は税金だと考えるととてもやるせない気持ちになる。
		高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴ってまん延防止等重点措置が適用されているが、前年の緊急事態宣言期間中以上に新規感染者が増加していることから、観光客はもちろん地元客も外出を控える動きが顕著にみられる。
		スナック(経営者)	それ以外	・2月はまん延防止等重点措置が適用されたため、営業を休止している。飲食店によっては営業している店もあるが、大変苦労していると聞いている。
		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の期間延長に伴って、予約のキャンセルが相次ぐなど、集客が減少している。エネルギー価格の高騰なども複層的に発生しており、なすすべもない状況にある。
		観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴いキャンセルが頻発した。回復のめどが立たない状況となっている。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の流行により、観光や商業施設の人流が減少している。道外からの観光客も減少しているが、道内からの人流は観光、商業施設共に激減している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・2月のタクシーの売上は前年比マイナス10%であり、新型コロナウイルス発生前の前々年と比べるとマイナス50%であった。まん延防止等重点措置が適用されたことに加えて、大雪の影響も大きい。除雪が追い付いていないことから、幹線道路が大渋滞しており、生活道路はどこも一車線となり、ふだん30分のところが2時間も掛かるような状況となっている。雪で空港が閉鎖され、鉄道も数日間の全面運休となったことでタクシーの注文につながる動きもみられたものの、需要に十分対応することができなかった。タクシー1台当たりの売上は前年から10%の増加となったが、乗務員の高齢化に伴うドライバー不足もあって、稼働台数が減っており、会社の売上は大きなマイナスとなった。
		タクシー運転手	販売量の動き	・まん延防止等重点措置の適用により夜間の人出が壊滅的に減少している。タクシー車両の稼働台数を通常の1割程度に抑えても、運送収入は通常の3割しか得ることができない。また、昼間の運送収入も落ち込んでいる。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	その他サービス業[建設機械レンタル](総務担当)	受注量や販売量の動き	・大雪対策のためのレンタル需要も含まれるが、引き続き売上が前年を5%程度上回って推移している。
	□	建設業(役員)	受注量や販売量の動き	・年度末を控え、多くの現場が完工を迎えている。記録的な大雪や新型コロナウイルス感染の第6波はあったが、直接大きな影響を受けることなく、工期短縮と追加工事などで計画を上回る利益を確保できている状況に変わりはない。
	□	輸送業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・トレーラーの輸送台数が例年の1割減程度となっており、回復傾向が続かない。商材別に動きをみると、紙パルプ関連、生乳、飲料関連が伸び悩んでいる。一方、バター、砂糖、脱脂粉乳などは相変わらず保管水準の高い状況が続いている。
	▲	食料品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて売上が減っている。
	▲	家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染拡大の影響がみられる。

	▲	建設業（従業員）	取引先の様子	・業界の高齢化の影響が出始めている。以前から問題視されてはいたものの、技術者不足に伴って単価上昇につながっているケースや断られるケースが生じ始めており、予定どおりに工事をできない状況が起こりつつある。
	▲	輸送業（支店長）	受注価格や販売価格の動き	・原油価格の上昇が経費に少しずつ悪影響を及ぼし始めている。
	▲	通信業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの収束が遅れ気味なことに加えて、ウクライナ情勢への懸念もあり、道内の景況感に与える影響が大きな観光、飲食、小売業を中心に、取引先から景気減速や投資計画の縮小、取りやめなどの話が増えている。また、当社の本業である足元のIT投資も半導体不足の影響を受けて遅れが生じている。
	▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・道内におけるまん延防止等重点措置の期間延長やエネルギー価格の上昇が、個人消費の下押し要因となっており、特に宿泊、飲食などのサービス消費に厳しさがみられる。このため、道内景気はコロナ禍が沈静化していた3か月前と比べてやや悪くなっている。
	▲	司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルス第6波の感染拡大に伴ってまん延防止等重点措置が適用されていることで、全ての経済活動の動きが鈍くなっており、景気低迷の兆しが現れている。また、大雪に見舞われたことで交通に支障が出たこともマイナスである。例年、冬期間は不動産取引が減少する傾向にあるため、2重3重に影響が生じており、経済活動が減少している。
	▲	司法書士	取引先の様子	・以前までは新型コロナウイルスオミクロン株などの直接的な影響によって業績が悪くなるが多かったが、現在は部品や材料の不足、物流の停滞、価格高騰などが要因となって景気が悪化している。
	▲	その他非製造業 〔鋼材卸売〕 (従業員)	受注量や販売量の動き	・半導体など、多品種で供給不足の影響が出てきている。製品や部品が手配できないことで少しずつ売上にも影響が出始めている。
	×	その他サービス業 〔建設機械リース〕(支店長)	取引先の様子	・燃料の価格高騰、原材料の価格高騰、人手不足など、マイナス要因が多くみられる。
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・ほとんど全ての業界で前年を上回る求人数がみられる。特に建設、運輸、生活関連サービスなどが大幅に増加している。求職者の動きも活発になってきており、転職市場に活気が出ている。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における1月の有効求人倍率は0.86倍であり、3か月前と比べると0.02ポイント下回っている。
	○	学校〔大学〕 (就職担当)	求人数の動き	・2月22日、24～25日と学内企業説明会を開催し、100社ほどの採用担当者を招いたが、どの企業も新型コロナウイルス発生前の状況に戻りつつあり、早めに新卒者を囲い込みたいという意欲が強い。企業が先行きを見通して新卒採用活動を行っていることを考えると、一般市民の景気感とは温度差があるかもしれないが、景況感は一方向に上向いている。
	□	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人ニーズは相変わらず堅調に推移している。特に営業職へのニーズは業界問わず増加傾向にある。最近では建設業界からの営業求人の問合せが多いことも目立っている。建設業界が動き出すと、他業界への波及効果も期待できるため、景気がやや回復しているようにもみえる。販売や観光以外の業界においては、新型コロナウイルスの影響がないわけではないが、感染状況を織り込んだ上で業績確保に動いている。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・建設業や運輸業、不動産業など、求人数が増えている業種もあるが、飲食業や宿泊業など、まん延防止等重点措置の影響を受けている業種では求人数が減っている。新型コロナウイルスの新規感染者数の増減により一進一退の状態が続いている。

□	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3か月前と比べて目立った大きな動きはみられない。求職者数については有効求職者数が高止まりしており、求人数については人手不足分野であれば常時求人が出ている。有効求人倍率も0.97～0.98倍を行ったり来たりしている。ただ、新型コロナウイルスの影響を受けている業種が非常に苦しんでいるという構図は余り変わっていない。</li> </ul>
□	職業安定所（職員）	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1月の新規求職者数は前年から増加しているが、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加している状況から、一時的な動きとみられる。</li> </ul>
▲	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まん延防止等重点措置の影響で飲食、レジャー、観光、商品購買などへの意欲が落ちてしまった。コロナ禍後を見据えた大手企業による新規出店も一部でみられるが、地域全体に与える効果は限定的なものにとどまる。</li> </ul>
×	—	—	—